

【会議要旨】

会 議 名	令和5年度 第3回3R推進行動会議
開 催 日	令和5年11月16日(水)
開 催 場 所	エコプラザ 会議室
事 務 局	環境リサイクル支援部 みなとりサイクル清掃事務所
会 議 次 第	【報告事項】 ・みなと区民まつり開催報告 ・みんなと3Rパネル展の開催について 【検討事項】 ・海洋プラスチック問題啓発イベントの開催について
資 料	・みなと区民まつり 港区3R推進行動会議ブース 実施報告書 ・みんなと3Rパネル展 企画案 ・海洋プラスチック問題啓発イベント 企画案
会議の結果及び主要な意見	
	<p>みなと区民まつり開催報告</p> <p>【事務局】</p> <p>・みなと区民まつりにおいて、3R推進行動会議ブースを出展した。実施内容は、パネル等の展示、分別体験、ペットボトルキャップを用いたアンケート、啓発品の配布である。</p> <p>・ブースへの来場者数は、1日目509人、2日目656人の、合計約1,165人であった。今年度の来場者数は、前年度比60%（昨年度の来場者数は1,921人）。来場者数減の理由は、前年度はガラポンで集客していたが、今年度は分別体験に変更したためである。来場者数は減ったが、以下の理由により、分別への啓発効果は高かったと考えている。①来場者一人ひとりとコミュニケーションがとれた②ブース滞在時間が長く、展示等をよく見てもらえた③ただ楽しむだけでなく、学びながら楽しんでもらえた点で、効果的に啓発できた。</p> <p>・スタッフは、委員の方4名にもボランティアとしてご参加いただき、どの時間帯にも、必ず5人配置できるように運営できた。</p> <p>・パネル等の展示では、3Rや資源のリサイクルについて記載したパネル・リサイクル品の実物を見ていただいた。アルミの再生品・プラスチックの再生品の実物に興味を持っていただくことが多く、見て分かりやすい展示が効果的であることが分かった。また、ペットボトルキャップの拠点回収を啓発するため、ペットボトルキャップの回収容器を展示した。</p> <p>・分別体験として、ペットボトル・缶・シャンプーボトルなどのプラスチック製品の3種類を、準備したごみ箱に分別してもらった。品目については、会議でいただいた意見を踏まえ、「シャンプーボトルなどのプラスチック製品」を追加した。分別を間違えた人や、迷っていた人には、正しい分別方法や、識別マークの見方などをその場で教えた。</p>

・アンケートは、ペットボトルキャップの拠点回収の啓発を兼ねて、ペットボトルキャップを用いて実施した。質問は、「ペットボトルを正しく分別をすることができましたか?」「正しい分別方法を知っていましたか?」の2問。「ペットボトルを正しく分別をすることができましたか?」については、1,165名から回答が得られ、そのうち、正しく分別をできた人は約94%、正しく分別をできなかった人は約6%であった。また、「正しい分別方法を知っていましたか?」は、1,145名から回答が得られ、そのうち、正しい分別方法を知っていた人は約86%、正しい分別方法を知らなかった人は約14%であった。このことから、分別体験で正しく分別できた人の中に、分別方法を知らなかった人が約8%（107名）いたことが分かる。これは、港区民の方で、分別方法が分からないけれどもたまたま正解した人がいることも考えられるが、港区外の来場者も多く、自治体によって分別のルールが異なるため、港区の分別方法を知らない人もいたと考えられる。次年度以降は、これらのことを踏まえ、港区外の人への啓発も考えてアンケートの設問を検討することが望ましい。

・啓発品は、清掃事務所で準備した物に加え、食品容器環境美化協会様にもご提供いただいた。計8種類の啓発品を配布した（清掃車ペーパークラフト、コースター（食品容器環境美化協会様から提供）、鉛筆、色鉛筆、3Rキャラクターぬり絵、エコバッグ、ヨーヨー、水に流せるティッシュ）。啓発品を見てからブースに入る方もおり、啓発品の内容を充実させる必要性を感じた。今年は、大人向けはマイバッグ等の実用的なもの、子供向けはヨーヨー・清掃車ペーパークラフト等遊べるものが人気であった。

・来場者全員とリサイクルや分別に係る話ができたため、来場者1,165人に対して啓発を行うことができたと考えている。

【委員】

・パネル前に置いたリサイクル展示品の固めた缶を見た方から、「これは缶何個分ですか」「重さは何キロですか」という質問をされたので、展示品の情報をもらえると良かった。

・分別体験に参加する前に、順番に並んでいる待ち時間でパネルを見てから体験に進む流れになっていたので、パネルを見てもらっていると感じた。

・リサイクル展示品は興味を持ってもらえた様子。分別体験ではお子さんが親子で相談しながら分別する様子も見えて、楽しんでもらえたと思う。ただ、分別された品物を体験参加者のために元の箱に戻さなければならないが、テントが狭い中での作業に苦労したので余裕が欲しいと思った。

・ガラポンはガラポンで人が集まったが、今回の分別体験も興味を持ってもらえたので、啓発になり結果としては良かったと思う。

・展示していたパネルにふりがなが無かったので、小さいお子さんが読めないということがあった。また、港区民以外の方から分別について質問され、「自分のところは分別方法が違う」という声があった。これは港区での分別ルールであることをわかりやすく表示したほうがいいと思う。

・日曜日にボランティア参加したが、啓発品が少し寂しい気がした。→思ったより参加者が多く来て、啓発品が早めに減って、エコバック等はすぐになくなってしまった。

【結果】

- ・前回の会議ではガラポンから変更することに来場者数を心配する意見はあったが、啓発品が無くなりそうなくらいに参加してもらうことができ、体験をすることで分別への啓発になったという点で効果があったと思う。

みんなと3Rパネル展の開催について

【事務局】

- ・海洋プラスチック問題の啓発を目的として、パネル展示を行う。区に加え、企業・団体の展示物もある。2023年11月20日から30日に、みなとパーク芝浦1階アトリウムで展示するため、土日も含め、8時から23時までご覧いただける。
- ・港区の展示では、海洋プラスチック問題の概要を展示する。また、プラスチックの代替品も展示する。企業・団体については、海洋プラスチック問題に対して行っている取組みについて、紹介する展示内容である。

【結果】

- ・各参加団体の展示を充実させて見る方々に積極的に興味をもってもらえるような内容や展示の工夫をして欲しい。

海洋プラスチック問題啓発イベントの開催について

【事務局】

- ・海洋プラスチック問題啓発イベントとして、講演会・ワークショップを開催する予定。日時は、令和6年2月下旬～3月上旬の土曜日又は日曜日を予定している。講演会・ワークショップを同日に開催する。対象は、講演会は区内在住・在学・在勤のかた25名、ワークショップは区内在住・在学の小学生とその保護者12組24名を想定している。参加者には、啓発品の配布を予定している。
- ・このイベントが、海洋プラスチック問題対策に取り組むきっかけとなることを目標として、候補を選定した。講演会については、身近に感じられる内容・ワークショップについては代替品の作成以外の内容も加えて候補を選定しました。
- ・講演会の第一候補として、さかなのおにいさんかわちゃん氏の「世界一楽しい！おさかなクイズで環境学習」を選定しました。イラストや音楽を交えながら、魚の面白い生態や海の環境問題、SDGs（海の豊かさを守ろう）について楽しく学習できます。色とりどりのイラストを用いて講演をされているので、目を引きやすく良いのではないかと考えています。おさかなクイズの生き物数は500種類以上あるため、各地域に合わせたオリジナルの講演会を行うことができます。オチのあるさかな4コマクイズで、子どもから大人まで楽しめる内容となっているようです。魚がテーマとなっていることで、まずは自然に対して親近感をもってもらい、海洋プラスチック問題について、より身近な問題としてとらえてもらえるのではないかと考えています。
- ・第一候補の調整が難しかった場合の候補として、武本匡弘氏の講演を選定しました。プロダイバーとして、数十年国内外の海に潜った経験があるかたです。世界の海を訪れた経験を活かし、40年間撮影し続けた水中映像を交えながら講演を行って

ただけます。参加者も意見を出し合いながら、一人一人が、何をすべきなのかを考えます。実際に目で見たことについてお話を聞くことができるので、海洋プラスチック問題について、実際に起こっている問題としてとらえやすいのではないかと考えている。

- ・次に、ワークショップについてご説明いたします。海洋プラスチックごみを使ったアクセサリーを作成するワークショップを、第一候補とさせていただきます。海洋プラスチックごみの破片を、光で固まるレジン液で固めます。古くなったものや要らなくなったものに、新たな価値があるものに変える、「アップサイクル」を体験していただきます。こちらは、プラスチック製品を排除するのではなく、大切に使用してごみを減らすという視点に立っています。

海洋ごみが出ている現状を知ってもらい、きれいなものに作り替えます。ごみとなっていたものをリサイクルして愛着を持って使用してもらうことで、海洋プラスチック問題について考えてもらうきっかけづくりになります。

第一候補の調整が難しかった場合の候補として、玉ねぎの皮を使用して、オーガニックコットンで作られた布袋を染めるワークショップを選定しました。レジ袋等の代替品となる布袋を作成することで、生活に脱プラスチックの製品を取り入れてもらうきっかけづくりとなります。

また、服の大量生産・大量消費が環境負荷になっていることについて、講義をしていただけます。

【委員】

- ・講演会の人数が 25 名という予定だが、増やすことはできないか。関心があって聞いてみようという人は多いかもしれない。ホールとか大きい会場で開催すれば多くの人に参加できるのではないか。
- ・過去の講演会では最大何名来たのか。
→環境関連の施設であるので、エコプラザを会場として使い、講演会とワークショップを開催という想定で会議室の規模から 25 名で検討した。過去の講演会で一番多い時は参加者59名の例があった。エコプラザ1階スペースを仕切りのパーテーション無しで利用できるかなど会場については検討する。
- ・講演会とワークショップは1回どれぐらいの時間なのか。
→各1時間程度で予定している。
- ・ワークショップは親子12組となっているが、講演会の対象は大人だけで子供の参加はできないのか。
→プロフィールでは子供対象でも可能なようなので、講師と調整する中で相談する。
- ・ワークショップは海洋プラスチックごみを使ったアクセサリーを第一候補で調整することだが、参加者に海洋プラスチックは「きれいなアートを作れる良いもの」だと誤解を与えることがないように、実施してほしい。
→実施する際は講師と内容について調整する。

【結果】

- ・第1候補である「さかなのおにいさん かわちゃん氏の講演」と、「海洋プラスチックごみを使ったアクセサリーを作成するワークショップ」で、事務局は調整を進め、調整

が難しい場合は第2候補で準備を進める。

・講演会の会場については、より収容人員の多い場所での実施を検討する。